

「チコちゃんに叱られる」ニコニコ主義

令和3年(2021)12月24日放送

今回のテーマは

「写真撮影で笑顔を作るのはなぜ？」

日本でのきっかけはニコニコ主義

江戸時代末期の日本人は真面目な堅い顔をしていた。男性は公の前で笑うことはなく威厳を保ち、女性は口元を押さえて笑う習慣だった。

日本へ写真技術が入ってきたのは1854年（江戸後期）ペリーが来航した時である。

最初、写真に自分の姿を撮られることに気後れし笑顔で写真を撮る状況でなかった。

また、このころの写真機は露光時間が長く2分間じっとしなければならなかった。笑顔をキープするのが難しかったので真面目な表情になった。

ここから時代が進み明治37年(1904)、日本は日露戦争に突入して多くの人々が亡くなったり、戦争に伴う不況があったり、社会主義者が弾圧・処刑された大逆事件などが起こったりと世の中はどんどん暗くなっていくばかり。

このような時期に暗くなった日本を笑顔で明るくと、牧野元次郎は明治44年(1911)雑誌「ニコニコ」を発刊し笑顔を写真で撮ろうと多数の笑顔の写真が掲載された。これをきっかけに日本で笑顔の写真が増えていった。

また、雑誌中にはニコニコ倶楽部なる組織を作って「ニコニコ主義」を提唱。「世の中のことはすべてニコニコ的に解決する。平和も成功も皆このニコニコ主義より生ずるものと信じる」。ちなみに当時世界一の先進国で景気が良かったアメリカでも明るい気分で積極的に働こうという楽天主義の思想で成功を収めていたという事もあった。

牧野元次郎は後の「りそな銀行」に繋がる「不動貯金銀行」の頭取でもあって、その際に培った人脈などを生かして大物財界人たちにもニコニコ主義への賛同を求めたりと、積極的に活動。その一人が渋沢栄一。雑誌ニコニコの中では笑顔の写真を見せた。ほかに乃木希典、夏目漱石、与謝野晶子などの写真を掲載。

また、雑誌ニコニコも不動貯金銀行で販売したり、一定以上の預金者に無料で配ったりとマーケティングも広く行ってますます知名度がアップ。不動産銀行は地方に増えていき、人々の目に触れる機会が増えた。当時日本一の発行部数だった婦人世界が8万部だったのに対して、雑誌ニコニコは7万部と肉薄。

こうして牧野元次郎の始めたニコニコ主義がどんどん日本に浸透。さらにこの頃は写真技術の発達によって写真撮影にかかる時間が数秒で済むようになったので余計に笑顔の写真が撮りやすくなった。

というわけで結論。日本人が写真を撮る時笑顔になるのはニコニコ主義があったからでした。



不動貯金銀行（昭和初期）内部
写真提供：奈良県立図書情報館所蔵